

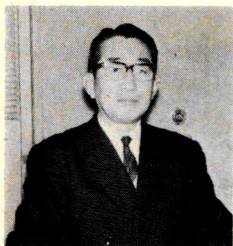
建材試験 センター会報 6

1968

VOL. 4

N O. 6

- ・巻頭言／インドから帰って 原野律郎
新しい年度を迎えて 理事長 笹森 巽
- ・Ⅰ 試験料金
- ・Ⅱ 試験報告 「ギルボード」の性能試験
- ・Ⅲ 業務報告
受託状況
会合その他の事項



インドから帰って

原 野 律 郎

かつて通産省は窯業建材課に籍を置き、去る昭和39年10月末から3年余り、日本ブラント協会ニューデリー事務所長としてインドに滞在、2月初め帰国しました。

と、まず自己紹介をしても果して思い出して貰えるかどうか。それよりも「今から4年前通産省にあって、当建材試験センターを設立した首謀者の一人です」といった方が分り易いかと思います。

インドから3年ぶりに帰国した私にとっての最大の喜びは、水道の蛇口から出る水をそのまま幾らでも飲むことでも、御飯さえあればお菜はいらない位おいしいお米の味でもなく、当センターがかくも素晴らしい成長を遂げてくれたことです。「私とその設立に当りました」、帰ったらこの一言をいいたい、それだけを楽しみに、連日40°Cを越す酷熱の地で3年余も頑張ってきた、といったら若干大げさにもなりますが、生みの親より育ての親、笹森理事長を始め事務局の皆さん方、浜田、狩野両先生ら関係者の方々に対して、私が通産省への帰国挨拶にもこの一言をいえるようにして下さったことを心から感謝します。

しかし実のところ、大蔵省から僅かな補助金を引張り出し、笹森さんに責任者を押付け、小菅の川辺りに試験機を置いて日本を去った3年前には、草加に6000m²の敷地を持つ今日の中央試験所の偉容は到底考えられませんでした。遠いインドで、政府の広大な試験、研究所を見学していても、砂礫の荒野に赤錆びた煙突一本の煙瓦工場を見ている、当センターのことを思出し、また理事長や西先生からのお手紙を受取るたびに、とんだものを残して行ってくれたと叱られるのではないかとこわごわ読んだものでした。皆さん方にとっては長かったに違いない3年間も、私にとってはつい昨日のように思われます。

インドではもう短かった冬が終り、底抜けに青く澄んだ空に、ぎらぎらと輝く太陽が憎らしくなって来る頃です。ニューデリーでは、大統領官邸のギリシャ式柱廊が高く広く続く前庭に、赤や黄の原色の花が咲き乱れ、その左右シンメトリックに建ち並ぶ諸官庁の、古代インド建築様式を伝えた赤砂岩の建物が、青い空に浮かび上っていることでしょう。タージ・マハールの遺跡も白大理石がただまぶしくて、一面に刻み込まれた赤や緑の稀石の模様までは見えない位でしょう。ボンベイのマリン・ドライブ沿いに建てられた高層アパートの窓は一斉に開かれ、夜ともなれば、ゆるい弧を描いて続く水銀灯の明りがアラビア海の潮風を呼んで、人々は文字通りのクィーンズ・ネックレスの夜景を楽しんでいることでしょう。思い出は懐しく、美しいことばかりです。しかし何ととっても、日本人にとっては日本が世界中で一番素晴らしい国です。しかしまた何とも不思議なことは、これだけ衣食満ち足りた素晴らしい国が、その住生活では何とも貧困なことです。

夜のインド名物は、夜目にも黒い人達が住むに家なく街路に転々と寝転んでいることでしょう。しかし街の郊外には、鉄筋コンクリートのアパートが政府の手でつぎつぎと建てられ、スラムは年を追って少なくなっています。インドのサラリーマン階級の家は最低2DKで、DKは10畳位の広さがあり、各室バス、トイレ付が普通です。そして家賃は給料の大体2割位です。

昨年10月にインドではかなり大規模な地震があり、発電所を始め倒壊家屋数百戸の被害がありました。その時インド政府は、地震に対しては矢張り日本式家屋の方が安全であるとの結論から、急拠被災地に向けて竹、椰子の葉などの軽資材を送ることを決定したと報ぜられました。

この記事を読んで大いに憤慨し、会う人ごとに訂正していた私の愛国心も、帰国して3カ月にして、都心に聳立つ超近代的な新しいビルと、電車のレールすれすれにまで建ち並ぶ相も変らぬ木造住宅の群を見ると、何となく色あせて来たように感じます。

インドから帰って、建築行政、建築材料の問題について3年前と変らぬ論議を耳にするにつけ、問題の難しさを今さら知らされるとともに、矢張り長いようで短かった3年間だったと、ほっとしているような今日この頃です。

<筆者：科学技術庁研究調整局総合研究課長>



新しい年度を迎えて

笹 森 巽

建材試験センターも、この4月から新しい年度を迎えたわけであるが、はじめ任意団体で発足した昭和38年8月からは、すでに5年目、財団法人となった昭和39年6月からは4年目になったわけである。建材試験機関としての事業活動は、他の機関に再依頼することによって、やってできないことはないけれども、公平に、迅速にそして実費主義で——という設立の趣意にはなかなか添い難い。そこで何より先に試験施設を自ら備え、これらの施設を自らの手で操作して性能を判定せねばならぬ。このためには莫大な資金の準備を必要とするが、これらの資金を調達することも容易なことではない。しかも試験用機器の主なもの、ほとんど注文生産されるものばかりであるから、注文してから早いもので半年、遅いものになると1年余もかかる。施設の主なものに対しては国庫が半額程度補助することになっていても、その年度の国庫補助金はその年度で施設が完了して支払が済んだものに対してのみ支払われる。以上のような諸条件を勘案しつつ、創立早々に施設整備5カ年計画を樹立したわけであるが、財源の予想を樹てにくいので、果して5カ年計画通り実現し得るか否か、懸念しつつ年を経過した。

ところが5年経過した今、回顧して見ると、当初の5カ年計画のほとんど90%は、現に実現し得たのであって、予定通りでき上らなかったものの主なものは、草加の試験所の本館の建築だけである。この本館の床面積の約半分は、事務室・応接室・資料室・会議室・食堂などであるから、試験の実施に直接影響を持つものではないし、別に約100人を収容し得る会議室兼講堂を仮設したので、当分は間に合う。とにかく試験施設の全部を、草加市の買収地に集結し、名も中央試験所と呼称することとし、試験実施施設の相関関係を従来よりも一層有機的ならしめることができたのである。先般開催の理事会、評議員会の延長として中央試験所を有志で視察したが、「よくもここまででき上ったものだ」と賞賛され、「今このような試験機関を新たに企画しても、とてもできないであろう」とタイミングのよさを指摘された。まさに官界、学界、業界の有形無形の強力な支援によってもたらされた結実であって、われわれ執行部は、このような支援の裏腹である当建材試験センターに対する期待に、充分答えねばならぬという責任をここに改めて痛感したわけである。

そこで執行部が再確認した心構えの二、三を拾って見よう。

心構えの1は、われわれの当初掲げたモットーである「正しく、速く、実費主義で」をいよいよ顕現するのほか、これに「親切に」を加えようということである。厳正な態度は絶対に必要であるが、同時にあくまでサービス精神に徹せねばならない。この両面を同時に果すことは難しいことではあろうが、従業員の良識は、それを難なく果たし得るまでに育ってきたと信じている。

心構えの第2は、財団法人である以上営利事業とは異なるが、経常の経費は自ら賄って参らねばならないのであるから、事業収入の安定を図るための腐心配慮を尽さねばならないのである。このために試験依頼件数の増加を図ることはもちろん、建材に関する調査研究とか、技術相談などの件数も大いに増大せねばならない。その意味で先般の理事会、評議員会で審議した昭和43年度の事業計画は重要な意味を持つことになるのである。

諸々の狭さを切り抜けながら、ここまで育った5カ年を回顧して、機関としてではなく個人としてわがことのように、当建材試験センターを育て下さった狩野、浜田両顧問、8名の技術委員、6名の主任研究員、その他の多くの権威ある諸先生に重ねて心からなる感謝を申し上げると同時に、今後一層の御支援を切にお願いする次第である。

＜筆者：（財）建材試験センター理事長＞

I 試験料金⑦

工業技術院より委託された JIS 原案の作成は、審議を完了次第答申しているが、関連業界からこの原案による試験依頼を受付けるケースが多い。42年度に答申したもののうち、試験料を算出決定したものおよび試験機によるものは次のとおりである。

(1) 2成分型ポリサルファイド系シーリング材

建築用 2 成分型ポリサルファイド系シーリング材 (JIS 案) に基づく試験を一式として行うものである。

試験項目

1. 可使時間

2. タッグフリー

3. スランプ

4. 汚染性

5. かたさ

{ 標準状態

{ $70^{\circ}\pm 1^{\circ}\text{C}$ 96 時間

6. 引張接着強さ

{ 初期引張接着強さ

{ 水中浸せき後の引張接着強さ

{ 加熱後の引張接着強さ

7. はく離接着強さ

8. 引張復元性

試験料金 ¥83,000 (1 種類につき)

(2) 合成高分子ルーフィング

合成高分子ルーフィング (JIS 案) に基づく試験を一式として行うものである。

試験項目

1. 比重

2. 引張試験 (引張強さ・のび)

{ 無処理 (試験温度 -20°C , 20°C , 60°C)

{ 加熱後

{ アルカリ浸せき後

3. 引裂強さ

{ 無処理 (試験温度 -20°C , 20°C , 60°C)

{ 加熱後

4. 加熱収縮

5. 伸張時の劣化

{ 加熱劣化

{ オゾン劣化

6. ピンホール試験

試験料金 ¥123,000 (1 種類につき)

(3) インストロン万能試験機による試験

本試験機は最近使用ひん度が多くなってきたので、

これをつぎに示す。

(4) 装置機能の概要

容量 10t, 最少感量 20g, クロスベクト移動速度 $0.05\sim 50.0\text{cm/min}$. XY 記録装置付。温度チャンバー ($-100^{\circ}\text{F}\sim +600^{\circ}\text{F}$) 引張, 圧縮, 曲げ試験, 繰返し疲労試験可,

(v) 試験料金

(i) 20°C における引張, 圧縮, 曲げ試験

1,500円/1片

(ii) 0°C 以下の低温時の引張, 圧縮, 曲げ試験

3,000円/1片

(iii) (i)(ii)以外 (高温) の時の引張, 圧縮,

曲げ試験

1,800円/1片

II 試験報告

この欄に掲載する試験報告書は、依頼者の了解を得たものである。

「ギルボード」の性能試験 試成第 969 号 (依試第 941 号)

1. 試験の目的

田島ルーフィング㈱より提出された「ギルボード」について性能試験を行なう。

2. 試験の内容

「ギルボード」について下記に示す項目の試験を行なった。

(1) かさ比重試験 (5) 熱伝導率試験

(2) 曲げ強さ試験 (6) 水蒸気透過率試験

(3) 圧縮強さ試験 (7) 寸法安定性試験

(4) 吸水率試験

3. 試験体

「ギルボード」は硬質ウレタンフォームの上下 2 面にアスファルト合浸紙を貼り付けた板材である。提出された試験体は厚さ 15mm 品, および 25mm 品の 2 種類である。

4. 試験方法

各試験は試験体を 20°C , 60% の恒温恒湿室の中で恒量になるまで放置後, つぎに示す試験方法によって行なった。

(1) かさ比重試験

かさ比重試験は, ASTM D 1622-63「Apparent density of rigid cellular plastics」に準じて行なった。

(2) 曲げ強さ試験

曲げ強さ試験は ASTM C203-58「Breaking strength and calculated flexural strength of prefoamed block type thermal insulation」に準じて行なった。すなわち試験体の寸法を精度 $1/50\text{mm}$ のノギスで測定したのち, 材料試験機 (インストロン万能試験機) でスパン 254mm で中心に毎分 20mm の速度で荷重をかけ, 破

壊時の荷重を測定し、次式から曲げ強さを求めた。

$$\text{曲げ強さ}(\text{kg/cm}^2) = \frac{3wl}{2bd^2}$$

ただし

w = 破壊荷重(kg) b = 試験体の巾(cm)

l = スパン(cm) d = 試験体の厚さ(cm)

(3) 圧縮強さ試験

圧縮強さ試験は、ASTM D 1621「Compressive strength of rigid cellular plastics」に準じて行なった。すなわち試験体の寸法を測定したのち、材料試験機(インストロン万能試験機)にセットして、毎分3mmの速度で荷重をかけ、10%変形時の荷重および弾性率の測定を行ない、次式から10%圧縮時の強度および弾性率を求めた。

$$\begin{aligned} 10\% \text{変形時強度}(\text{kg/cm}^2) \\ = \frac{10\% \text{変形時の荷重}(\text{kg})}{\text{断面積}(\text{cm}^2)} \end{aligned}$$

$$\text{弾性率}(\text{kg/cm}^2) = \frac{WH}{A\delta}$$

ただし

W = 比例限界点荷重(kg)

A = 試験体断面積(cm²)

H = 試験体高さ(cm) δ = 変形量(cm)

(4) 吸水率試験

吸水率試験は、ASTM D2127-62T「Water absorption of rigid cellular plastics」に準じて行なった。吸水率は次式によって求めた。

$$\text{吸水率}(\text{g/cm}^3) = \frac{\text{吸水率}(\text{g})}{\text{試験体体積}(\text{cm}^3)}$$

(5) 熱伝導率試験 概要

試験は比較法によって行なった。測定装置の概要を

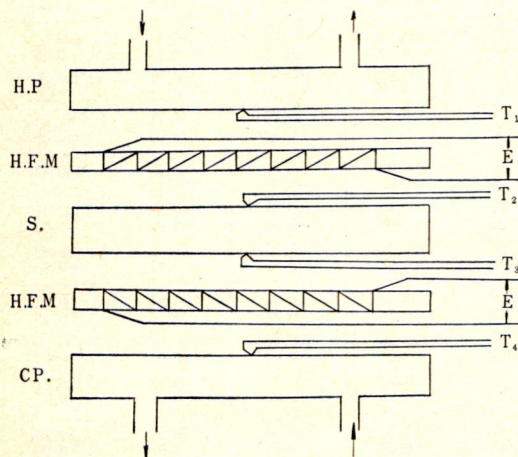


図1 測定装置の原理

H.P.—加熱板(加熱槽) C.P.—冷却板(冷却槽) H.F.M.—熱流量計
C—試験片 T₁—加熱板表面熱電対 T₂—試験片加熱面熱電対
T₃—試験片冷却面熱電対 T₄—冷却板表面熱電対 E—熱電対列

図1に示す。(詳細省略)

(6) 水蒸気透過率試験

水蒸気透過率試験は ASTM C355-59T「Water Vapor transmission of materials used in building construction」の Desiccant method に準じて行なった。

すなわち 23C, 50%RHの試験槽中に14日間放置し、その間1日毎に透湿量の測定を行なった。

(7) 寸法安定性試験

寸法安定性試験は ASTM D2126-62T「Resistance of rigid cellular plastics to simulated service conditions」, Procedure B (−29±3°C), D (60±1°C 90~100%RH) および, E(70±1°C) に準じて行なった。すなわちそれぞれの条件下に試験体を6日間放置してその間1日毎に寸法測定を行なった。なおウレタン・フォームの発定方向をタテ方向とし、それに対して直角方向をヨコ方向とした。

5. 試験結果

(1) かさ比重の測定結果を表1に示す。

試験体	番号	かさ比重(g/cm ³)
15mm品	1	0.132
	2	0.134
	3	0.135
	平均	0.133
25mm品	1	0.103
	2	0.105
	3	0.101
	平均	0.103

(2) 曲げ強さ試験結果を表2に示す。

試験体	番号	曲げ強さ(kg/cm ²)
15mm品	1	10.6
	2	10.4
	3	9.3
	4	10.2
	5	10.6
	平均	10.2
25mm品	1	9.3
	2	10.1
	3	10.0
	4	10.0
	5	10.6
	平均	10.0

(3) 圧縮強さ試験結果を表3に示す。

(4) 吸水率試験結果を表4に示す。

(5) 熱伝導率試験結果を表5に示す。

(6) 水蒸気透過率試験結果

水蒸気透過率は15mm品および25mm品共に零である。(透湿量が零または零近辺である)

(7) 寸法安定性試験結果を表6~8, 図2~6に示す(図7省略)。

表 3 圧縮強さ試験結果

試験体	番号	10%変形時強度(kg/cm ²)	弾性率(kg/cm ²)
15mm品	1	1.4	21
	2	1.4	20
	3	1.6	19
	4	1.5	20
	5	1.5	20
	平均	1.5	20
25mm品	1	2.1	45
	2	2.0	49
	3	1.9	41
	4	2.0	53
	5	2.0	41
	平均	2.0	46

注) 降伏点強さは測定不能、したがって降伏点ヒズミも測定不能のため、10%変形時の強度として表わした。

6. 試験の担当者・期間および場所

担当者 藤 本 勝 藤 川 慧

須 藤 作 幸 鈴 木 正 敏

期 間 昭和42年9月27日から昭和43年1月25日まで

場 所 中央試験所

表 4

吸水率
試験結果

試験体	番号	吸水率(g/cm ³)
15mm品	1	0.012
	2	0.021
	3	0.023
	4	0.016
	5	0.013
	平均	0.017
25mm品	1	0.016
	2	0.014
	3	0.021
	4	0.014
	5	0.017
	平均	0.016

表 5 ギルボードの熱伝導率測定結果

試験片の種類	No.	λ (°) Kcalmh°C (平均温度)			カサ比重(g/cm ³)
		λ (C)	λ (C)	λ (C)	
15mm品	1	0.019(26)	0.020(41)	0.021(50)	0.14
	2	0.020(26)	0.021(40)	0.022(50)	0.13
25mm品	3	0.017(26)	0.018(40)	0.019(55)	0.10
	4	0.018(26)	0.019(41)	0.019(50)	0.10

注) 表中の λ の値は比較法による測定値で標準試験片は軟質ウレタンフォーム ($\lambda=0.031+0.00016 \theta$) を用いた。

表 6 寸法安定試験結果 (−29±1°C)

(単位 上段mm, 下段もとの長さに対する増減%)

試験体	番号	方 向	1	2	3	4	5	6	7
15mm品	1	ヨ コ	100.29 0	100.17 −0.12	100.20 −0.09	100.18 −0.11	100.16 −0.13	100.17 −0.12	100.18 −0.11
		タ テ	100.66 0	100.61 −0.05	100.61 −0.05	100.63 −0.03	100.63 −0.03	100.12 −0.04	100.61 −0.05
		高 さ	19.80 0	19.78 −0.10	19.78 −0.10	19.76 −0.20	19.75 −0.25	19.75 −0.25	19.75 −0.25
	2	ヨ コ	100.20 0	100.13 −0.07	100.14 −0.06	100.11 −0.09	100.09 −0.11	100.09 −0.11	100.10 −0.10
		タ テ	99.97 0	99.91 −0.06	99.93 −0.04	99.90 −0.07	99.88 −0.09	99.87 −0.10	99.87 −0.10
		高 さ	19.46 0	19.45 −0.05	19.45 −0.05	19.45 −0.05	19.44 −0.10	19.44 −0.10	19.45 −0.05
	3	ヨ コ	100.69 0	100.53 −0.16	100.57 −0.12	100.56 −0.13	100.55 −0.14	100.54 −0.15	100.53 −0.16
		タ テ	100.92 0	100.82 −0.10	100.85 −0.07	100.83 −0.09	100.82 −0.10	100.81 −0.11	100.80 −0.12
		高 さ	19.76 0	19.71 −0.25	19.73 −0.15	19.71 −0.25	19.70 −0.30	19.71 −0.25	19.71 −0.25
25mm品	1	ヨ コ	100.55 0	100.47 −0.08	100.43 −0.12	100.43 −0.12	100.43 −0.12	100.43 −0.12	100.42 −0.13
		タ テ	100.55 0	100.49 −0.06	100.52 −0.03	100.52 −0.03	100.52 −0.03	100.52 −0.03	100.51 −0.04
		高 さ	26.06 0	25.94 −0.46	25.92 −0.54	25.91 −0.58	25.89 −0.65	25.89 −0.65	25.89 −0.65
	2	ヨ コ	100.10 0	99.92 −0.18	99.94 −0.16	99.94 −0.16	99.94 −0.16	99.94 0.16	99.94 0.16
		タ テ	100.32 0	100.25 −0.07	100.29 −0.03	100.28 −0.04	100.28 −0.04	100.28 0.04	100.28 0.04
		高 さ	26.42 0	26.34 −0.30	26.33 −0.34	26.32 −0.37	26.32 −0.37	26.32 −0.37	26.32 −0.37
	3	ヨ コ	100.04 0	99.91 −0.13	99.95 −0.09	99.96 −0.08	99.97 −0.07	99.97 −0.07	99.98 −0.06
		タ テ	100.39 0	100.31 −0.08	100.33 −0.06	100.32 −0.07	100.32 −0.07	100.32 0.07	100.32 0.07
		高 さ	26.21 0	26.12 −0.34	26.12 −0.34	26.14 −0.27	26.14 −0.27	26.15 −0.23	26.16 −0.19

表7 寸法安定性試験結果 (60±1°C, 95%以上)

(単位 上段mm, 下段もとの長さに対する増減%)

試験体	番号	方 向	1	2	3	4	5	6	7
15mm品	1	ヨ コ	100.00	101.13	101.56	102.79	102.96	103.16	103.22
			0	1.13	1.56	2.79	2.96	3.16	3.22
		タ テ	101.00	101.88	102.37	102.95	103.20	103.44	102.55
			0	0.87	1.36	1.93	2.18	2.42	2.52
	2	ヨ コ	100.18	102.70	103.39	104.23	104.37	104.52	104.62
			0	2.52	3.20	4.04	4.18	4.33	4.43
		タ テ	100.12	101.28	102.19	102.83	103.27	103.42	103.41
			0	1.16	2.07	2.71	3.15	3.30	3.29
	3	ヨ コ	99.78	102.85	103.41	103.99	104.15	104.51	104.51
			0	3.08	3.64	4.22	4.38	4.74	4.74
		タ テ	100.00	100.53	101.67	101.97	102.27	102.49	102.67
			0	0.53	1.67	1.97	2.27	2.49	2.67
25mm品	1	ヨ コ	100.26	103.70	104.10	104.83	104.95	105.01	105.02
			0	3.44	3.86	4.56	4.68	4.73	4.81
		タ テ	100.80	101.42	102.13	102.40	102.56	102.61	102.61
			0	0.62	1.32	1.59	1.75	1.80	1.80
	2	ヨ コ	102.27	103.52	104.01	104.14	104.42	104.51	104.41
			0	3.24	3.73	3.85	4.14	4.23	4.13
		タ テ	101.71	103.05	103.33	103.70	104.03	104.02	104.99
			0	1.32	1.59	1.96	2.28	2.27	2.24
	3	ヨ コ	98.87	102.70	102.77	103.39	103.52	103.70	103.74
			0	3.87	3.94	4.57	4.70	4.89	4.93
		タ テ	100.15	101.39	101.70	102.01	102.17	102.33	102.31
			0	1.24	1.55	1.86	2.02	2.18	2.16

表8 寸法安定性試験結果 (70±1°C)

(単位 上段mm, 下段もとの長さに対する増減%)

試験体	番号	方 向	1	2	3	4	5	6	7
15mm品	1	ヨ コ	100.16	99.85	99.85	99.79	99.68	99.67	99.64
			0	-0.31	-0.31	-0.37	-0.48	-0.49	-0.52
		タ テ	100.79	100.48	100.46	100.46	100.45	100.46	100.46
			0	-0.31	-0.33	-0.33	-0.34	-0.33	-0.33
	2	ヨ コ	99.98	99.65	99.62	99.61	99.63	99.60	99.59
			0	-0.33	-0.36	-0.37	-0.35	-0.38	-0.39
		タ テ	100.79	100.48	100.46	100.46	100.45	100.46	100.46
			0	-0.31	-0.33	-0.33	-0.34	-0.33	-0.33
	3	ヨ コ	100.42	100.01	100.06	100.05	100.05	100.02	99.98
			0	-0.41	-0.34	-0.37	-0.37	-0.40	-0.44
		タ テ	99.92	99.60	99.62	99.61	99.60	99.33	99.49
			0	-0.32	-0.30	-0.31	-0.32	-0.59	-0.43
25mm品	1	ヨ コ	100.67	100.28	100.27	100.26	100.23	100.26	100.26
			0	-0.39	-0.40	-0.41	-0.44	-0.41	-0.41
		タ テ	100.52	100.02	100.08	100.08	100.06	100.05	100.05
			0	-0.50	-0.44	-0.44	-0.46	-0.47	-0.47
	2	ヨ コ	100.17	99.81	99.80	99.80	99.79	99.79	99.78
			0	-0.36	-0.37	-0.37	-0.38	-0.38	-0.39
		タ テ	99.47	99.09	99.08	99.06	99.03	99.02	99.00
			0	-0.38	0.39	-0.41	-0.44	-0.45	-0.47
	3	ヨ コ	99.79	99.45	99.39	99.36	99.34	99.32	99.29
			0	-0.34	-0.40	0.43	-0.45	-0.47	-0.50
		タ テ	100.45	100.11	100.08	100.06	100.04	100.03	100.02
			0	-0.34	-0.37	-0.39	-0.41	-0.42	-0.43

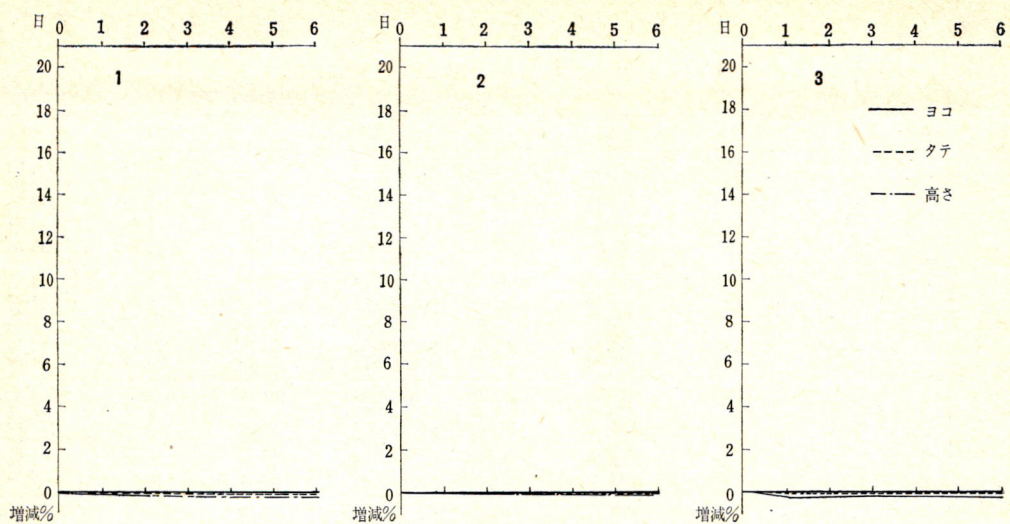
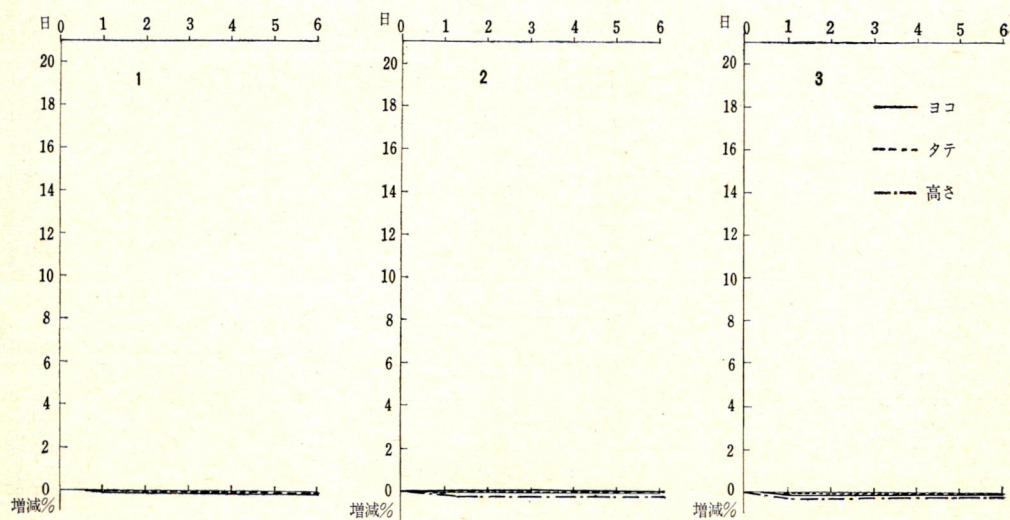
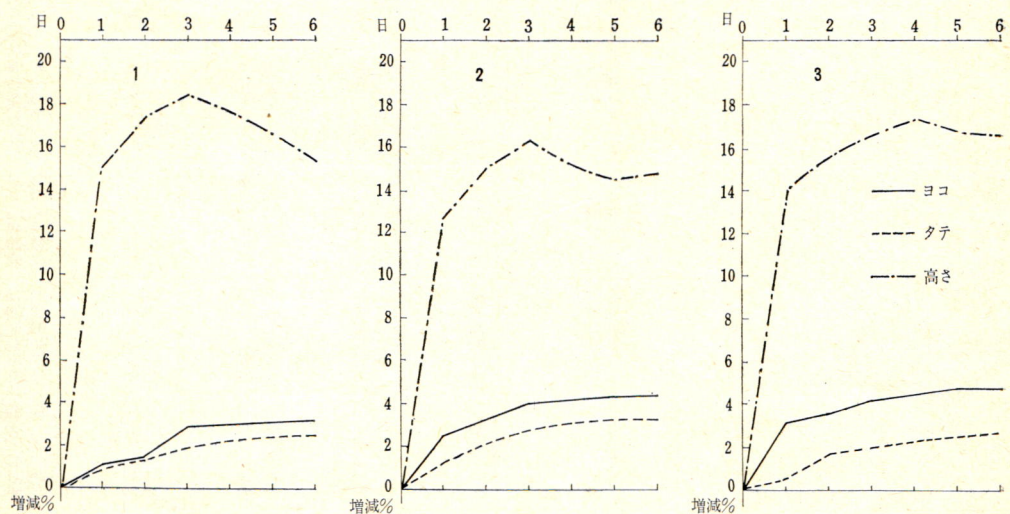


図 2 寸法安定性試験結果(1)条件 $-29^{\circ}\text{C} \pm 3^{\circ}\text{C}$ 15.0mm品



▲ 図 3 寸法安定性試験結果(2)条件 $-29^{\circ}\text{C} \pm 3^{\circ}\text{C}$ 25.0mm品

▼ 図 4 " (3)条件 $60 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 95% 15.0mm品



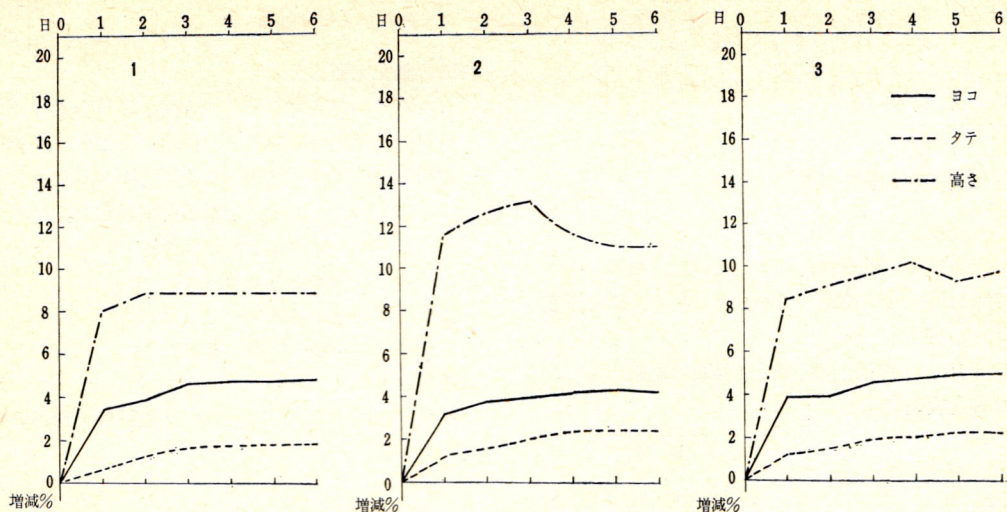


図5 寸法安定性試験結果(4)条件 $60^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ 25.0mm品

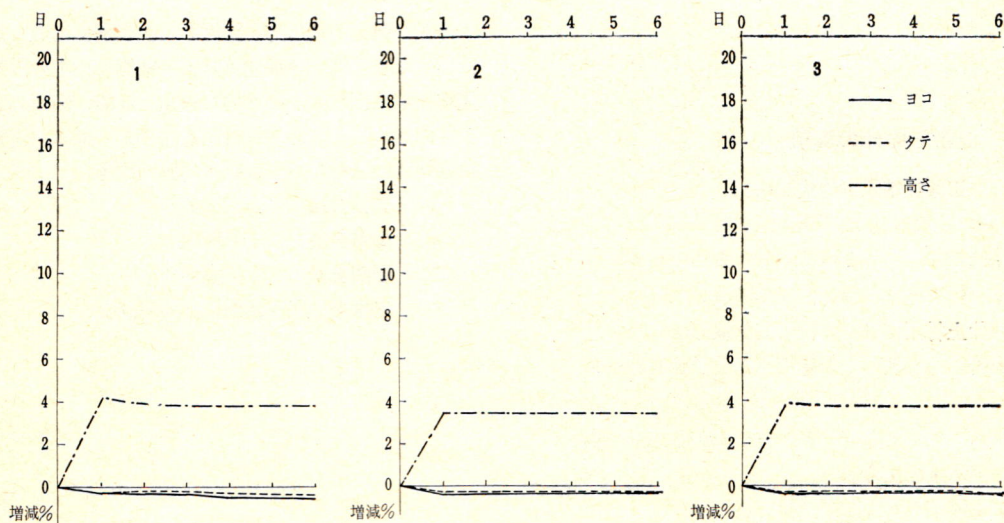


図6 寸法安定性試験結果(5)条件 $70^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ 15.0mm品

受託件数(依試号1199号~1233号)の内訳

材 料 区 分	材 料 一 般 名 称	試 験 内 容	件 数
(1) 木材, 繊維材料	木 材	比重, 含水率, 吸水率, 圧縮, 曲げ, 引張	1
(2) モルタル, コンクリート	砂石, 混和剤	骨材試験(ふるい分け, 比重, 吸水, すりへり, 安定性等) 空気量, スランプ, 圧縮, 吸水, 透水, 保水性, 乾燥, 収縮 凍結融解, 曲げ, 接着力	6
(3) 左官材料	リシン, パテ	圧縮, 曲げ, 附着力, 硬度, 耐候性	3
(4) セメント製品	岩綿ボード	熱伝導率, 硬度, 熱膨張率	1
(5) 家具, 建具	耐火庫, アルミサッシ, 学校用家具	耐火試験, 水密性, 気密性, 強さ, 繰返し衝撃, 塗膜	15
(6) プラスチック	マ ッ ト	引張, 引裂, 熱伝導率	2
(7) シール材	油性コーキング, シール材	作業性, スランプ, きれつ, はく離, 収縮, 接着復元性, 保 油性, 耐アルカリ, 耐汚染性	2
(8) 紙, 布, カーテン, 敷物	建築工事用シート, フィルム	はとめ, 引張, 引裂	4
(9) 塗 料	塗料下地処理材	洗滌, 塗装はがし	2
(10) パネル(複合材)	軽量パネル	耐風水圧試験, 耐火試験	2
合 計			35

Ⅲ 業務報告

1. 43年度受託状況

(1) 受託試験

(イ) 4年度の工事用材料を除いた受託件数は、35件(依試第1199号～1233号)であった。その内訳を下表に示す(前頁右下)。

(ロ) 4年度の工事用材料の受託件数は総数79件で、その詳細を次表に示す。

試験の内容	受付場所		計
	中央試験所	本部 (銀座事務所)	
コンクリートシリンダー圧縮試験	20	15	35
鋼材の引張・曲げ試験	23	9	32
骨材試験	2	2	4
その他	8	0	8
計	53	25	79

2. 会合その他の事項

(1) 工業標準原案作成関係

(1)-1 昭和43年度新規委託項目

工業技術院よりつぎの7項目の委託があった。

- 建築材料の摩耗試験方法(落砂法)。
- 天井仕上材用接着材の接着力試験方法。
- 基布その他で補強した建築用高分子合成ルーフィング。
- キャストブル気泡コンクリートのかさ比重、含水および吸水量測定方法。
- ドア用開閉金物の開閉試験方法。
- ベニシヤンプラインド(プラスチック製を除く)
- プラスチック建築材料の促進ばく露試験方法

(1)-2 原案作成委員会

○軽量シャッター改訂(JIS A 4704)

第2回本委員会 4月8日 第2回小委員会 4月22日
改訂原案に対しメーカー側2団体関係委員よりの要望意見の審議ならびに意見調整を行なった。

○木毛セメント板改訂(JIS A 5404)

第3回小委員会 4月15日

改訂原案の逐条審議を行ない、必要とする曲げ破壊荷重および、たわみ試験を5社の製品につき実施することを決めた。

○壁用ボード類の接着剤の接着力試験方法

第4回本委員会 4月19日

原案の試験方法以下にうき、逐条審議を行なった。

また、「解説」に記載する内容につき検討を行ない最終的審議を完了した。

○ビニタイル接着材 第7回合同小委員会 4月23日

原案に単軸引張試験方法を採用したこと、接着剤を一般用、浸潤用の2種類とし接着力強さの数値を入れることにするなどの未決定事項を審議した。

○オートクレープ養生した軽量気泡コンクリートパネル。 第5回本委員会 4月23日

修正原案の逐条審議を行なった。

○建築用パネル類の規格のあり方 第11回委員会 4月23日

パネルに関するアンケートの結果報告と内容の検討を行なった。

(2) 建築生産開発調査研究会議

第23回委員会 4月10日

今後の研究の進め方を検討し、項目別担当者を定めた。主な項目は、各種建築材料の推算、住宅の内外装調査、部位別工法の標準的な種類と性能、図面による実態調査の取まとめと材料別総需要量の推算。需要量決定要因の分析、および将来の動向調査。

(3) 業務会議 2回開催

(4) 編集会議 1回開催

(5) 顧問会議 1回開催

(6) 三木会(関係新聞社との懇談会)

建材試験センター会報 Vol. 4 No. 6 (6月号)

財団法人 建材試験センター

本部 東京都中央区銀座東6の1

通産省銀座東分館内

電話(542)2714・2744直通

(541)4721 交換

中央試験所 埼玉県草加市稲荷町字堤外川上1804

(工業団地内)

電話(0489)2-0051